

高校期の顔面・頸部症状と外出困難を経て短期間で活動性が戻った青年期アトピーの経過 (高校生 青年)

症例 ID：001-10-UKy | 記録日：2001 年 3 月 30 日

1. 診断・治療前経過

高校2年生の初め頃、首の後ろに強いかゆみと乾燥、サメ肌のような状態が出ました。近医では汗とほこりが原因と説明され、外用薬を使用していました。

薬をつけるとかゆみは軽くなりましたが、つけないと体がかゆくなり、顔や髪の生え際にも赤みが出ました。高校3年1学期頃には顔が赤くなり、外出や登校が難しくなり、遅刻も増えました。

2. ステロイド使用歴

項目	内容
使用内容	近医で軟膏を使用していました。軽いステロイドと説明された記録があります。
製品名	不明です。
強度	軽いステロイドと説明されていますが、詳細は不明です。
使用期間	約1年間使用していました。
中止時期	医師に相談し、ワセリンへ変更しました。
来院前／後	来院前に使用歴があります。来院後の使用は不明です。

3. 治療開始後の経過（リバウンドを含む）

時期	治療開始から	経過
高校2年初め	発症	首の後ろに乾燥とかゆみが出ました。
その後	使用継続	軟膏を使用するとかゆみは軽くなりましたが、中止するとかゆみが出ました。
高校3年1学期頃	悪化	顔が赤くなり、外出や登校を嫌がる状態になりました。
松本医院受診後	治療開始	煎じ薬、消毒液、入浴後の外用処置を続けました。
約2か月後	経過中	赤い薬で顔が目立つのではないかと不安がありました。
約3か月後	改善	顔の赤みが薄くなり、外に出るようになりました。
記録時点	生活変化	短期間で皮膚状態と行動面の改善がみられ、本人が明るく活動的になりました。

4. ピーク時期

ピークは、高校3年1学期頃に顔の赤みが強く、外出や登校が難しくなり、睡眠や起床にも影響した時期です。

5. 困りごと

- 顔の赤みのため外出や登校が難しくなりました。
- かゆみで眠りにくく、朝起きられず遅刻が増えました。
- 複数の民間的な対応を試しても改善しませんでした。

6. 経過のまとめ

治療開始後しばらく不安を伴いましたが、3か月を過ぎる頃には顔の赤みが薄くなり、外に出られるようになりました。皮膚状態の改善とともに、本人が明るく活動的になる変化がみられた症例です。

本ページは、患者さんの経過を時系列で整理したものです。
症状や経過には個人差があり、同様の経過や結果を保証するものではありません。